

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介させていただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第75回

ヘチマ



ヘチマはインド原産でウリ科に属する蔓性の1年草で4m位まで伸びます。初夏葉柄の付け根から長い花茎を伸ばし黄色の花を開き、夏には4~50cmの果実が熟します。

学名は*Luffa cylindrica*で属名の*Luffa*はアラビア語でヘチマを意味します。また、種名の*cylindrica*はラテン語で円柱状の、を意味します。

ヘチマは室町時代中国から伝えられましたので意外と古い作物です。成熟果実の繊維束は絲瓜絡(しからく)と呼ばれ去痰、血行を良くし、乳汁分泌を促し、急性乳腺炎等に用いられます(中医・漢方生薬大事典)。ヘチマの未熟果実は中国や台湾で良く食べますが、成長したヘチマの蔓の根元を切りビンに入れて液を集めてヘチマ水として化粧水にされますし、また、成熟果実の繊維束は束子として用いられます。

本画はカーチスによる1700年代末の作です。

